

《担当者名》 教授/越智 守生 准教授/広瀬 由紀人 講師/仲西 康裕
 助教/仲西 和代 助教/山口 摂崇 助手/諏訪 涼子

非常勤講師/秋馬 秀成 非常勤講師/前田 幸宏 非常勤講師/肥後 文章
 非常勤講師/松原 秀樹 非常勤講師/加々見 寛行 非常勤講師/高島 成悟
 非常勤講師/松本 弘幸 非常勤講師/神田 秀治 非常勤講師/柳 智哉
 非常勤講師/國安 宏哉 非常勤講師/兼田 陽介 非常勤講師/越智 眞理
 非常勤講師/田村 直 非常勤講師/高薄 紀男

【概要】

講義で理解した歯冠補綴治療をマルチメディアによる臨床シミュレーション実習の環境下で、歯冠補綴臨床で最も基本的な手技となる全部金属冠と前装冠の製作を行うことで補綴診療に必要な器具・材料の使用法を理解し、基本手技を習得する。

【学修目標】

- 正常な歯冠形態や口腔機能・顎運動に関する基礎知識を説明する。
- 歯冠補綴診療における一連の基本的診療術式を説明する。
- 歯冠補綴診療における一連の基本的技工操作を説明する。
- 歯冠補綴診療における一連の基本的診療術式を実施する。
- 歯冠補綴診療における一連の基本的技工操作を実施する。
- 各種歯科材料の特性を説明する。
- 各種歯科材料を適切な取り扱いを実施する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	切削機具の使用法	切削機具の使用法 実習に先だち、各種切削機具及びハンドインストゥルメントの使用法の基本的な技術を習得する。 研究用模型の作製 エポキシ模型（患者の口腔内を想定）の概型印象を行う。 トレーの試適、印象採得、印象面の照合、石膏の注入、研究用模型の正確な作製法を理解する。また、実習室の器具・機械の取扱い方について説明を受ける。 「クラウンブリッジ補綴学実習」 F-3-4)-(1) , , , , ,	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕 仲西 和代 山口 摂崇 諏訪 涼子 非常勤講師
2	個人トレーの作製	個人トレーの作製 診断用上顎模型、下顎模型が完成すれば、精密印象のための個人トレーの作製を行う。 「クラウンブリッジ補綴学実習」 F-3-4)-(1) ,	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕 仲西 和代 山口 摂崇 諏訪 涼子 非常勤講師
3	全部鑄造冠 (Full Cast Crown) 6支台歯形成 1	支台歯形成にあたっての4原則 1. 歯質の保存 2. 保持と抵抗 3. 補綴物の耐久性 4. マージンの適合性 などを念頭に置き、歯頸部形態、対合関係、歯髓腔の形態などを考慮し、診断用模型上に外型線を鉛筆で書き、全部鑄造冠の支台歯形成を行う。 「クラウンブリッジ補綴学実習」 F-3-4)-(1) ,	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕 仲西 和代 山口 摂崇 諏訪 涼子 非常勤講師
4	全部鑄造冠 (Full CastCrown) 6支台歯形成 2 個歯トレー作製	支台歯形成が終われば個歯トレーの作製を行う。 個歯トレーは、形成歯の歯頸部辺縁の精密な印象を採得するためである。 「クラウンブリッジ補綴学実習」	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕 仲西 和代

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		F-3-4)-(1)	山口 摂崇 諏訪 涼子 非常勤講師
5) 6	印象採得、作業用模型作製	印象採得、咬合採得を行う。 歯肉圧排を行う。 支台歯及び歯列の印象採得を個人トレーと個歯トレーを用いて行う。 作業用模型の作製は、講義で述べたごとく、ダウエルピン応用歯型可撤式模型を作製する。上記の事項について、十分な理解のうえ技術を習得する。 「クラウンブリッジ補綴学実習」 F-3-4)-(1) , ,	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕 仲西 和代 山口 摂崇 諏訪 涼子 非常勤講師
7) 8	作業用模型作製、咬合器装着	作業用模型を咬合器に装着する。 上下模型を咬合採得をもとに正しく咬合させて咬合器に装着させる。次に歯型(ダイ)の分離分割を行い、可撤式にする。 「クラウンブリッジ補綴学実習」 F-3-4)-(1) , ,	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕 仲西 和代 山口 摂崇 諏訪 涼子 非常勤講師
9) 10	蝓形採得(Wax up) 6	歯型の分離、歯型のトリミングを行う。Wax upにおいては、分離剤の塗布、Wax upの方法はディッピング盛り上げ法で行い、咬合面、隣接面、頬舌面及び歯頸部の蝓形成を行う。 「クラウンブリッジ補綴学実習」 F-3-4)-(1) ,	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕 仲西 和代 山口 摂崇 諏訪 涼子 非常勤講師
11	蝓形成(Wax up)、埋没	スプルー線の取り付け、円錐台植立、ワックスクラウンの清掃、キャストイングライナー、埋没材の練和、注入を行い、埋没を行う。 「クラウンブリッジ補綴学実習」 F-3-4)-(1) ,	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕 仲西 和代 山口 摂崇 諏訪 涼子 非常勤講師
12	鑄造、研磨、装着、完成	鑄造体を作業用模型上に試適する。前もって、冠内面の気泡をラウンドバーなどで除去する。歯型に試適を行い、歯頸部、隣接面の適合状態を確認し、さらに、咬合調整後研磨・装着をする。オリジナル模型での試適を確認し、完成、提出をする。 「クラウンブリッジ補綴学実習」 この項はクラウン・ブリッジ補綴において、最も頻度の多いクラウンについて基本的な操作を完全に習得しておく。 F-3-4)-(1) ,	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕 仲西 和代 山口 摂崇 諏訪 涼子 非常勤講師
13) 15	硬質レジン前装冠の作製 1	審美的補綴法の硬質レジン前装冠の作製を行う。 本実習では硬質レジン前装冠を作製する。光重合型硬質レジンの扱い方、硬質レジンの重合法などの基本的なテクニックと“コツ”を習得することを目的としている。 「クラウンブリッジ補綴学実習」 F-3-4)-(1) , , , , ,	越智 守生 広瀬 由紀人 仲西 康裕 仲西 和代 山口 摂崇 諏訪 涼子 非常勤講師

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

各課題に小テスト(10%)、平常点(10%)、製作した装置の出来(80%)

・小テスト、平常点および製作した装置の出来の合計点が60点以上で合格と判定する。

【教科書】

【学修の準備】

- 指定した教科書の該当ページを事前に読み、疑問点を整理する（15分）。
実習開始時に前回までの講義・実習内容に係る小テストが実施されるので復習する（15分）。
受講する前に各学習項目の実習範囲を予習しておく（予習：30分、復習：30分）。
- ・実習を休むと大幅に進行が遅れますので体調管理に配慮する。
 - ・清潔な白衣を着用すること。医療人として相応しい身だしなみで実習に臨む。
 - ・実習室へは白色の上履きを履くこと。白色以外上履きでの実習室への入室は認められない。
 - ・実習器材は毎回確実に準備すること。実習器材が不足すると実習を進行することはできない。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

- DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を歯冠補綴学の観点から修得する（専門的実践能力）。
- DP2.「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を歯冠補綴学の観点から身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。
- DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を歯冠補綴学の観点から身につける（自己研鑽力）。

【実務経験】

《歯科医師》越智守生、広瀬由紀人、仲西康裕、仲西和代、山口摂崇、秋馬秀成、前田幸宏、松原秀樹、加々見寛行、高島成悟、松本弘幸、神田秀治、柳 智哉、國安宏哉、兼田陽介、越智 眞理、田村 直、高薄 紀男

【実務経験を活かした教育内容】

歯冠補綴学は、歯質の崩壊・欠損を機能的、形態的回復を通じて、患者の生活の質の向上につながる学問である。開業医、勤務医として実務に携わる臨床経験10年以上歯科医師で、博士（歯学）の学位もしくは補綴歯科学会専門医資格の有する者が非常勤講師として歯冠補綴学診療における患者対応・注意事項について教育を行っている。